
東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

Farewell Greeting for Tokyo Gakugei University (Special Issue Commemorating the Retirement of Professor KAGAMI Masahiro)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加賀美,雅弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173790

学芸大を退職するにあたって

加賀美　雅弘

このたび定年を迎えて退職することになりました．振り返ると，あっという間の36年でした．というのは退職するときの「決まり文句」のようですが，実際は決して短い時間であるはずはなく，じつにさまざまなことがありました．その間に地理のスタッフも大きく変わりましたし，記録に残るゼミ学生は150名を超え，調査研究のためのヨーロッパ出張も，数えてみると90回余にもなっていました．それらをひとつひとつ列記するのも手でしょうが，忘れてしまったことも多いのでご容赦ください．

1986年に着任してまず助手5年，ついで社会科担当5年，そして欧米研究と多文化共生教育を26年担当しました．比較的自由にさせていただいたこともあり，当初は学生と見分けがつかず，「新人類」などと呼ばれたこともありました．教員たるべき姿が受け継がれてきた地理学教室で，かなり異質な存在だったと思います．もっとも，異質であり続けたい気持ちは今も変わらず，懐かしい思い出です．

ありがたかったのは，熱心な学生に恵まれたことでしょう．ゼミで多くの刺激を得て，国内外の巡検先で議論を深める機会が何度もありました．コンパでの語らいも忘れられない思い出です．ときに卒業後の活躍ぶりを耳にするたびに，教員冥利に尽きる思いをしています．

研究のほうはヨーロッパを中心に結果をまとめてきました．思い起こせば，当初取り組んだのが病気の地域差に関する地理学研究で，試行錯誤を繰り返しつつ19世紀のヨーロッパアルプスにおける住民の死因と近代化との関係に展開させました．さらにオーストリア=ハンガリー帝国内での健康状態の地域差研究につなげると，その地域差が民族間の格差・不平等と対応することに気づき，ヨーロッパの民族集団の不平等に関心が広がりました．そしてロマ差別の問題まで来ました．

ヨーロッパをフィールドにして民族集団を追いながら，現地に出かけるたびに研究目的以外の発見に歓喜し，日常から離れてあちこち見てまわる解放感も手伝ってか，調査にのめり込む幸せを実感してきたというのが正直なところです．ただ，そのために留守にすることが多く，大学の皆さんにはずいぶんご迷惑をおかけしたと，改めてお詫び申し上げたいと思います．

さて，最初に挙げた決まり文句ですが，実際にそう感じるのは，まだ退職の心境になっていないからでしょう．手がつけられていないことに挑戦する．好奇心が尽きない限り，引退はないと踏んでいます．幸い，特任教員としてもう少し学芸大にお世話になる予定ですので，退職を折り返し点と見立てて，あれこれ取り組んでみたいと思っております．引き続きよろしくお願いいたします．

最後に，このたび『学芸地理』に特集号を組んでいただき，編集にあたられた青木久先生をはじめ地理学分野の皆さんには，心からお礼を申し上げます．また，長くご支援をいただいた学芸地理学会，そして東京学芸大学の皆さんにも感謝申し上げます．